



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位: 億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
1/4 (月)	+ 3,600	▲ 20,500	▲ 16,900	国債発行・償還(2年)	補充供給 + 3,200		米: シカゴ連銀総裁講演、米アトランタ連銀総裁、パネル討論会に参加、米クリーブランド総裁講演 ユーロ圏: 製造業PMI(12月)
1/5 (火)	+ 5,000	+ 4,000	+ 9,000				日: 営業毎旬報告(12月31日現在) 米: シカゴ連銀総裁、パネル討論会に参加、ISM製造業景況指数(12月)
1/6 (水)	+ 4,000	▲ 64,000	▲ 60,000	国庫短期証券発行・償還(3M) 法人税・消費税・保険揚げ			米: ADP雇用統計(12月) ユーロ圏: PMI(12月)、PPI(11月)
1/7 (木)	+ 3,000	▲ 24,000	▲ 21,000	国債発行(10年)			日: 毎月勤労統計(11月) 米: 貿易収支(11月)、ISM非製造業総合景況指数(12月) ユーロ圏: 小売売上高(12月)、CPI(12月)、消費者信頼感指数(12月)
1/8 (金)	+ 3,000	+ 3,000	+ 6,000				日: 景気先行CI指数(11月)、景気一致指数(11月) 米: 雇用統計(12月)、卸売在庫(11月) ユーロ圏: 失業率(11月)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初495兆6,200億円から始まった。29日は財政等要因により減少し、週末となる30日は494兆2,300億円となった。無担保コールON物は、先週に引き続き地銀業態を中心に調達意欲が強く、堅調な地合となり28日及び29日の同加重平均金利は△0.019%となった。一方で四半期末となる30日は、調達を控える金融機関がいたことから、同加重平均金利は△0.033%に低下し越年した。

ターム物は1月スタートの1~2W物を中心に△0.020%~△0.015%で取引が見られた。

来週は、国内で11月の景気先行CI指数(8日)、11月の景気一致指数(同日)などが予定されている。海外では、ユーロ圏で12月のCPI(7日)、米国で12月の雇用統計(8日)などが予定されている。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	△0.087 ~ 0.001
1M	△0.030 ~ 0.030
2M	0.000 ~ 0.040
3M	0.000 ~ 0.070
6M	0.000 ~ 0.130

<レポ>

足許GC取引は週初△0.08%の出合いから始まり、末初物となる30日受渡しでは△0.09%~△0.08%で取引された。年初スタート物となる4日受渡しは、△0.07%台まで上昇した。

SC取引は2年409~419回債、5年136~145回債、10年340~360回債、20年170~174回債、30年63~68回債、40年12~13回債などに引合いが多く見られた。

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	△0.05 ~ 0.00
TDB 3M	△0.130 ~ △0.080
CP 3M	△0.05 ~ 0.00

<TDB>

今週は入札もオペもなく、セカンダリーも先週に引き続き閑散なマーケットとなった。年末を控え参加者が限られる中、3M物が△0.11%近辺、1Y物が△0.112%近辺にて少額の出合いが散見された。そのほか6M物は△0.12%の売り気配、△0.095%の買い気配が見られた。

<C P>

今週の入札発行総額は約5,000億円で、週間償還額(約1兆6,200億円)を下回った。発行市場は、電力や鉄鋼業等で一部大型発行案件も見られたが、四半期末を意識した残高調整の動きから、期日償還案件が多く、大幅な償還超となった。発行残高は先週末の24兆9,999億円から、29日時点で24兆6,473億円に減少した。発行レートは、△0.05%台~0%近辺での出合いであった。

年明けの第1週の償還総額(1/4~1/8)は、1,600億円程度となっており、期明けの発行再開から発行超となるだろう。発行レートは、マイナスから0%近辺でのレンジと思われる。オペ対象銘柄については変わらず積極的な買いが入るとされる。